



園部 増治 議員

市長公約について

問 昨年11月の選挙戦では、合併時の新市建設計画を着実に実行していくこと、子育て支援や医療の充実、国、県との連携など合併して良かったというまちづくりを目指していくことを市民に訴えた。選挙戦を振り返り感じたことと抱負について伺う。公約の中で、市民の夢がかなうまちづくりとして示された先導的プロジェクトの第1に南古河駅の設置、第2に筑西幹線道路

の整備、第3に高等教育機関の誘致、第4に産業文化拠点の整備があるが、市長自身が合併協議会の委員をしていたこともあり、強い思い入れがあると思う。古河市の将来にとって大変重要なプロジェクトであると思うが、その推進について伺う。

答（市長） 選挙戦では、市民の思いを肌で感じる事ができた。その信頼に応えるべく、市民と共に汗をかき、市民の夢がかなうまちづくり実現のために、ただ実践あるのみと決意を新たにしている。新市建設計画について、南古河駅の設置は合併当時の状況変化を鑑み、現状の把握、事業予測を含めた基礎調査を実施し、更なる一步を踏み出したいと考える。筑西幹線道路

整備は、財源の問題もあるが、新4号国道から境間々田線まで平成32年度の事業完了を目安に進めていく。高等教育機関の誘致は、昼間人口を増やすことを視野に入れ、私立高校、中高一貫校、専門学校等の誘致を目指す。産業文化拠点としての古河駅東部土地地区画整理事業は、一日でも早く完了するように積極的に取り組んでいく。

《その他の質問》

・産業振興について



(仮称) 南古河駅予定地付近



鶴見 久美子 議員

健康格差対策について

問 生まれ育った家庭や就いた職業など、さまざまな要因により健康状態の悪化や寿命が短くなるなどの健康格差が生じる。厚生労働省は市町村において、具体的な健康増進計画の目標を設置するよう努めるとしているが、市としてどのように計画を立てて推進しているか伺う。また足立区では、足立区糖尿病対策アクションプラン「あだちべ

ジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう」と糖尿病対策に重点を置き、取り組んでいる。医療費削減や健康格差対策、健康増進にもつながると考えるが所見を伺う。

答（健康福祉部長） 市の健康増進の取り組みについて、平成26年度に第2次古河市健康づくり基本計画を策定した。市民一人一人が自らの健康は自ら作るという意識を持っていただくために、各種事業を実施している。また、足立区の取り組みについて、非常に先進的である。今後、地区組織や関係機関との連携や企業などの団体とも協力しながら、市民の健康づくりを推進していきたいと考えている。

電子母子手帳サービス導入について

問 電子母子手帳サービスは、従来の母子手帳を補完し、スマートフォンなどで利用でき、赤ちゃんの成長記録の管理や健康診断等の日程を知ることができる。市の所見を伺う。

答（健康福祉部長） 電子母子手帳について、メリット、デメリット等、さらに他市町村の情報も研究しながら進めていきたい。



足立区の取り組み